

第 21 回通常総会・講演会・Q & A の報告

令和 6 年 5 月 19 日（日）、昨年と同様「ピアザ淡海」にて第 21 回通常総会を開催しました。近畿各ブロックより来賓としてお越しいただいた役員の方々 5 名、ご多用の中駆け付けてくださいました顧問の先生方 6 名、本年 4 月と一昨年に入会された新規会員 2 名を含め、15 名（付添 2 名含む）の会員の皆様にご参加頂きました。

当日、会員 13 名、委任状 17 名（会員総数 34 名）をもって成立しました。

次第に則り、物故者への黙祷、藤井支部長から総会開会の挨拶、近畿各ブロックよりご来賓の役員の皆様方のご紹介、本部戸川達男会長からの祝辞をご披露した後、滋賀県支部規約第 7 条により宮前副支部長を議長に選出し、第 1 号議案は藤井支部長より、第 2 号議案は田中会計担当理事より説明、足立監事より令和 5 年度の監査結果報告に続き、第 3 号議案を藤井支部長から説明、第 4 号議案について、田中理事から説明、第 5 号議案について藤井支部長から説明の後、各議案についてご審議いただき満場一致で可決、すべて原案通り承認をいただくことができました。

総会終了後、参加して下さった会員様（5 名）と支部の役員 9 名（1 名欠席）の紹介をさせていただきました。その後、昼食（仕出し弁当）をいただきながら、日頃何かと疎遠な会員相互や、近隣支部の役員の皆様方と親しく情報交換することが出来ました。

午後からの「講演会」の前に、参加者全員で記念の集合写真撮影を行いました。



～～～ 次 第 ～～～

- ◆ 開催日時：令和6年5月19日（日）11：00～15：30
- ◆ 会 場：滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海 206 会議室」
- ◆ 来 賓：関西支部
京都支部
兵庫県支部
奈良県支部
滋賀医科大学 循環器内科学講座教授
大津赤十字病院 循環器科部長
滋賀医科大学 情報総合センター医療情報部教授
滋賀県立総合病院 循環器内科部長
JCHO 滋賀病院 循環器内科部長
大津赤十字病院 医療技術部第一臨床工学技術課課長
- 中窪 和夫副 支部長
西川昌樹 支部長
登 房子 理事、高安 和子 監事
村木 正義支 部長
中川 義久 先生
貝谷 和昭 先生
芦原 貴司 先生
竹内 雄三 先生
宮本 証 先生
安藤 賢志 先生

◆ 参 加 者：会員 15 名（付添 2 名含む）

- 議 事
- 1. 第1号議案 令和5年度 事業報告
- 2. 第2号議案 令和5年度 決算及び監査報告
- 3. 第3号議案 令和6年度 事業計画（案）
- 4. 第4号議案 令和6年度 収支予算書（案）
- 5. 第5号議案 令和6年度 役員承認（案）

上記議案について、審議いただき満場一致で可決、承認をいただき、無事閉会しました。

□ 昼食・休憩・歓談

□ 記念撮影

□ 講演会

講 師 滋賀県立総合病院 循環器内科部長 竹内 雄三 先生
演 題 [ペースメーカーにおける様々な疑問に答える]



興味深かった内容を以下にまとめました。

- PM 患者はなぜ健康長寿（日常的に、継続的な医療介護に依存しなくて、自立した生活ができる期間）を達成できるのか？
 - ・ 心臓ペースメーカー植込みにより、脳への持続的な電気刺激が脳を活性化する？
 - ・ PM が挿入されていることで健康に対する意識が高い？
 - ・ PM のモニタリング機能により、疾病を早期に発見できる？
- 統計的にみると要介護認定率は、PM 患者が最も低い？
- PM 患者は認知症になりにくい？

《まとめ》

- ・ PM が入っていることで、寿命が短くなることはなく、むしろ健康への意識が高まり疾病を早期に発見することで、健康長寿を達成できる。
- ・ PM のモニタリング機能は進歩しており、最低限の注意を守ることによって、安心して通常の生活を送ることができる。

ペースメーカーが挿入されていることで身体障害者として認定され、健常者と比較して健康に対して一抹の不安をもって暮らしてきましたが、プロジェクターを使用した先生のご講演をお聞きして、明るく前向きに自信をもって生活できることと確信いたしました。

□ 勉強会 [ペースメーカー手帳の見方と役割について]

講師 大津赤十字病院 医療技術部第一臨床工学技術課課長 安藤賢志先生

各自がペースメーカー手帳を見ながら先生の説明をお聞きしました。

- ・ ペースメーカー手帳には本人に関する情報と緊急時の連絡先が明記されている。
- ・ 植込み実施病院に関する情報が記載されている。
- ・ 植え込まれたペースメーカーに関する諸元と植え込んだ時の条件が記載されている。
- ・ 定期検査時の経過が記載されている。
- ・ MRI 対応についての情報が明記されている。
- ・ 緊急時に病状判断と処置方針、検査手段などを決定するために不可欠なものがある。

先生からペースメーカー手帳の役割について説明を受けて、“ペースメーカー手帳”を常時携帯することの大切さを改めて認識することが出来ました。

□ Q & A

中川義久先生が座長を務めて下さり、あらかじめお聞きしていた会員からの質問 Q1～Q7 の質問事項について、ご出席いただいた 5 名の顧問先生方に答えて頂きました。

Q1：MRI 対応の PM を入っていますが、すでに 2 回目の MRI 検査を受けました。電池のある間は、何回も MRI 検査を受けても大丈夫ですか。

A1：MRI 対応でない PM で MRI 検査を受けると、磁力により PM が発熱し、その熱により PM が機能しない可能性があります。MRI 対応のカードがある PM であれば事前に対応し MRI 検査を受けることが可能です。その都度閾値や感度をきちっとチェックしてもらいましょう。MRI 対応の PM であってもリスクがあればカードがあっても検査ができないことがあります。緊急で MRI を使うことは少ないので、MRI 検査前に、よく MRI 検査の可否について十分に検討する時間がある場合が多いです。日本の MRI は高度なもので磁場が強いものも存在し、その場合には MRI 対応の PM でも、撮像できない場合もあります。磁場はテスラであらわされています。数字が大きい方が磁力が強い。1.5 テスラや 3 テスラなどの MRI 装置があります。質問の趣旨である複数回の MRI 検査の可否については、何回受けても大丈夫です。また PM の電池の残量とは関係ありません。

Q2：飲酒（アルコール）の PM への影響についてお伺いします。

A2：特にありません。過度の飲酒を避けるべきことなどは PM の有無に関かわらず大切です。



Q3：術後の植込み個所の痛み、違和感などについて、事例等も交えてお伺いします。

A3：植込み術後は、しばらくは違和感がありますが、意識せずに動かしていると薄らいでいくものです。むしろ精神的に過度に気になる方もおられ、回答者の経験では、植込みから数ヶ月経っても痛くてたまらないとの訴えが非常に強く、PM を取り出してほしいといわれた患者さんがありました。よく説明して理解をいただきました。注意していただくことは、PM が植え込まれた部位を観察して熱感や発赤がないかに注意することでそのような症状が出た場合は、感染症の疑いがあり受診することを勧めます。

Q4：PM 装着後（DDD）、3 年半が経過しました。順調に推移しております。日曜大工仕事や畑仕事は若い時からの趣味であり、実益を兼ねてやってきまし

た。そのため電動工具（電気ドリル・電気のかぎり・チェーンソー等）や耕運機を所有しています。PM 装着後、執刀医にこれらの使用とゴルフはダメと言われました。耕運機は処分済みで、ゴルフも辞める予定でしたが、術後、再開している方が何割かおられることを知りました。現在、いろいろな情報を確認の上、年に数回程度に限定して再開しております。ただ、電気工具については現在全く使用していませんので、誠に不便であります。頻繁に使うわけではないのですが、それでもダメですか。知りたいです。



A4：これらについては、万人共通のことではなく人によって違うものです。より安全な形で植え込まれているか等の違いがあります。また、PMは振動に弱いです。電動工具などについて使用時に発生する磁力がどれくらいあるか、メーカーに依頼すれば測定はしていただける場合もあります。その工具を使うことを生業とされている方は、測定してもらい、使用の可否を明確にすることも良ろしいのではと考えます。

Q5：2019年に右心房の、2021年に両心房の大動脈弁閉鎖不全症に対して、人工弁置換術を施行、術後から完全房室ブロックが認められたため、PM移植術を施行いただき、6ヶ月ごとの定期検診を受けて、現在おかげさまで、通常の生活ができています。満83歳で、年相応の老化を日常生活で感じますが、何不自由なく生活できています。今後予測される循環器系の病気の症状として、どのような症状が自覚できるのかお教えいただきたくよろしくお願いいたします。

A5：心臓の弁の手術やPMの植込みを経て、元気に生活されていることは素晴らしいです。気を付けることは、心房細動が出ていないかを調べていただくことです。心房細動があるのであれば、血液をサラサラにする薬を飲むことが大切です。PMのチェックを受けながら医師の指示を受けることが大事です。

いずれの質問に対しても先生方より丁寧に解かりやすく回答していただき、和やかな雰囲気の中で充実した時間を共有する事が出来ました。

近畿ブロックから来賓としてお越しいただいた役員の皆様方、顧問の先生方、会員の皆様のご協力をもって、総会を無事終了することが出来ましたこと、役員一同心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上

報告者 宮前武彦、田中正司、今井友子